

2 鳥 類

2 鳥類

広島県の鳥類は少なくとも 333 種が知られており、検討の結果、絶滅 1 種、絶滅危惧 I 類 6 種、絶滅危惧 II 類 9 種、準絶滅危惧 17 種、情報不足 5 種、地域個体群 9 種の計 47 種をレッドリストに選定した。

広島県は標高 1,000m 級の中国山地から瀬戸内海に面した海岸部までに、ブナ原生林、落葉広葉樹林、草原、牧場、貯水池、ダム湖、河川、農耕地、海面や島嶼部などの多様な自然環境があり、これらの環境にさまざまな鳥類が生息している。県内の森林は、近年の林業の衰退にともなって、伐採や造林などの森林施業も下火となり、森林化が進んでいるため森林性鳥類の生息基盤は比較的安定している。しかし、山間部に数多く建設および計画されている大規模太陽光発電所建設にともなう大規模工事によって、鳥類の生息環境の悪化が懸念されるので注意深く見守る必要がある。以下に、今回の見直しでカテゴリーを変更した種、新たに選定した種、対象外になった種について解説する。

カテゴリーのランクが上がった種は、オオジシギ、ヤマセミ、マミジロの 3 種である。オオジシギは代表的な草原性鳥類であるが、近年の草原環境の減少によって全国的に個体数が減少している。県内唯一の繁殖地であった北広島町の俵原牧場では、1997 年以來 23 年間渡来が確認されておらず、県内の繁殖個体群は消滅したものと思われる。そのため、2011 年版の絶滅危惧 I 類から絶滅に変更した。ヤマセミは、山間部のダム湖や河川中流域から上流域に生息している。近年、減少傾向が著しいことが明らかになり、準絶滅危惧から絶滅危惧 II 類に変更した。マミジロは、ブナ林に渡来して繁殖する夏鳥である。県では臥竜山、比婆山、三次市君田の 3 か所しか繁殖地が知られておらず、繁殖個体数の減少傾向が著しいため準絶滅危惧から絶滅危惧 II 類に変更した。

一方、ランクが下がった種としては、ブッポウソウとサンショウクイの 2 種が挙げられる。ブッポウソウは、本州以南に渡来して繁殖する夏鳥である。近年、巣箱かけによる保護活動が活発に行われるようになり、県中部から北部にかけて個体数の増加や分布域の拡大がみられるようになったため 2011 年版の絶滅危惧 II 類から準絶滅危惧に変更した。サンショウクイは、全国の森林に渡来して繁殖する夏鳥である。前回までの調査に比べると、ここ 10 年は個体数の増加や分布域の拡大にともなって繁殖確率が増加傾向にあるため、2011 年版の絶滅危惧 II 類から準絶滅危惧に変更した。また、クマタカは、現在の安定した生息状況からみると、カテゴリーの定義から準絶滅危惧に相当すると考えられる。しかし、生態的な特性や西中国山地一帯の尾根上に計画されている大型風力発電施設による森林の大規模開発により、その生息環境の悪化が懸念されるため絶滅危惧 II 類のままとした。

今回の見直しでレッドリストからはずれた種は、イソシギとコマドリの 2 種である。イソシギは、河川の上流部から下流部にかけて普通に見られる冬鳥である。かつては廿日市市や尾道市で繁殖が確認されたが、継続的に確認されていない。県内における繁殖は偶発的であると判断し、前回の要注意種からレッドリストの対象外とした。コマドリは、春秋の渡りの時期に見られるが、かつては吉和冠山や比婆山で繁殖が確認されたことがある。県内における繁殖は偶発的なものであると判断し、絶滅危惧 I 類からレッドリストの対象外とした。

逆に今回の見直しで新たに選定された種としてササゴイ、アオバズク、カラスバト、ゴイサギ、アマサギ、ジョウビタキの 6 種が挙げられる。普通種であったサギ類の 3 種は全国的に減少傾向が知られており、新たにレッドリストにくわえられた。ササゴイは、夏鳥として渡来して繁殖する小型のサギ類である。市街地周辺で見られることが多かったが、個体数の減少傾向が著しいので準絶滅危惧に選定した。アオバズクは、夏鳥として渡来して繁殖する小型のフクロウ類である。社寺や学校などの大木の樹洞で繁殖していた場所で見られなくなるなど、生息確認が著しく減少しているため準絶滅危惧に選定した。

カラスバトは、留鳥として本州、九州、四国、南西諸島の島々に生息している。今回の調査では、新たに1か所の無人島で生息が確認された。島嶼部に生息しており、生息状況の把握が困難であるため現状では情報不足とした。ゴイサギは、かつては県内のサギ類の中でも個体数が多かった。近年、その生息域が限られるようになり、サギ類のコロニー内でも見られることがまれになったため、今後の推移を見守る必要があるため情報不足とした。アマサギは、夏鳥として本州以南に渡来して繁殖する小型のサギ類である。近年、その生息域が限られるようになり、サギ類のコロニー内でも見られることがまれになった。ゴイサギと同様に情報不足とした。ジョウビタキは、冬鳥としては普通に見られる種である。近年は県内において少数のものが繁殖するようになり、今回の見直しで地域個体群として選定した。

オシドリ、シロチドリ、ハイタカ、ノスリ、シロハラ、ホオアカ、ミヤマホオジロ、クロジは、冬鳥としては普通に見られる種である。県内では繁殖個体群は希少であることから地域個体群とした。これらは、カテゴリー一定義の見直しにともなって2011年版の要注意種から変更したものである。そのほかにカテゴリーの変更があった種はキバシリ、ヨシゴイ、アマツバメである。キバシリは、留鳥として広葉樹林で少数が繁殖している。今回の調査によって分布域や繁殖場所が明らかになったため、要注意種から準絶滅危惧に変更した。ヨシゴイは、夏鳥としてヨシ原に渡来し繁殖する小型のサギ類である。近年、観察例が少なく、生息および繁殖状況も明らかでないため、絶滅危惧Ⅱ類から情報不足に変更した。アマツバメは、夏鳥として全国に渡来し、海岸や山地の崖に営巣する。大竹市の岩礁で繁殖している以外は、近年の調査では繁殖地が明らかでないため、要注意種から情報不足とした。

(上野吉雄)

鳥類選定種

絶滅 (EX)	5 イカルチドリ	5 シロハラ
1 オオジシギ	6 ハマシギ	6 ジョウビタキ
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	7 ズグロカモメ	7 ホオアカ
1 シロエリオオハム	8 カンムリウミスズメ	8 ミヤマホオジロ
2 タマシギ	9 ハチクマ	9 クロジ
3 コアジサシ	10 オオタカ	
4 イヌワシ	11 アオバズク	
5 コノハズク	12 ブッポウソウ	
6 ヤイロチョウ	13 ハヤブサ	
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	14 サンショウクイ	
1 ミゾゴイ	15 キバシリ	
2 ヒクイナ	16 コサメビタキ	
3 ヨタカ	17 シラガホオジロ	
4 チュウヒ	情報不足 (DD)	
5 サシバ	1 カラスバト	
6 クマタカ	2 ヨシゴイ	
7 コミミズク	3 ゴイサギ	
8 ヤマセミ	4 アマサギ	
9 マミジロ	5 アマツバメ	
準絶滅危惧 (NT)	地域個体群 (LP)	
1 ササゴイ	1 オシドリ	
2 クロサギ	2 シロチドリ	
3 クイナ	3 ハイタカ	
4 ダイゼン	4 ノスリ	

オオジシギ 絶滅(EX) EX-②

Gallinago hardwickii (Gray, 1831)

チドリ目 シギ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は 30 cm, 翼長は 14~17 cm, 体重は 110~230 g である。体全体が白・茶・黒のまだら模様で、くちばしが長い。北海道・本州・九州の草原や湿原に夏鳥として渡来し繁殖する。全国的に個体数が減少傾向にある。繁殖期には雄がズビーヤク・ズビーヤクと鳴きながら飛び回り、ザザザ…と羽音をたてて急降下するフライト・ディスプレイをしてなわばりを誇示したり、雌を誘引する行動が見られる。ミミズ類や昆虫類を地上で探して餌とする。巣は地上の草の根元に造る。
生息・生育状況	県内では夏鳥として、北広島町の俵原牧場で繁殖していた。北広島町芸北は本州における本種の繁殖地の西限にあたり、貴重な生息地であった。県内唯一の繁殖地であった俵原牧場では、1997 年以来 23 年間渡来が確認されておらず、県内の繁殖個体群は絶滅したと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖地である牧場では、大型機械による牧草の刈り取りなど、草地の管理方法が変化していった。それによってもなると、オオジシギの繁殖の攪乱が起きたり、草地が繁殖に適さない環境になったと考えられる。
特記事項	—
産地情報	北広島町 (芸北)

上野吉雄 2012. オオジシギ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 65. 広島県.

上野吉雄・保井 浩・小柴正記・藤原俊二・若本啓二・沖田 武・森口龍人 2014. 北広島町の鳥類. 北広島町の自然. P. 626-627. 北広島町教育委員会.

(上野吉雄)

シロエリオオハム 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Gavia pacifica (Lawrence, 1858)

アビ目 アビ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は 65 cm. 体は流線型をしており、首は太めでくちばしは尖っている。冬羽の上面は灰褐色である。冬鳥として全国に渡来する。海上に生息し、潜水してイカナゴなどの小魚を捕らえて餌とする。近似種のアビ <i>G. stellata</i> は小さく、くちばしが上に反り、灰褐色の上面に白い斑点が散在している。オオハム <i>G. arctica</i> はやや大きい、冬羽での識別は困難である。
生息・生育状況	県内ではおもに呉市豊島から斎島周辺の海面で冬季に見られる。1960 年代までは 300~600 羽くらいが生息していたが、近年の調査では 100 羽以内の確認にとどまっている。まれに、単独の個体が沿岸部海域で観察されることもある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	渡来数が大きく減少した要因は、かつて行われていた海砂の採取によって餌となるイカナゴが減少したためだと考えられている。広島県では 1998 年に海砂の採取を禁止している。本種は 3 月頃に換羽によって飛行能力が弱くなるため、レジャー船などの接近に対する安全の確保が必要である。そのため、広島県はシロエリオオハムが生息する海面を斎島周辺鳥獣保護区特別保護指定区域とし、レジャー船の航行を制限している。
特記事項	広島県はアビ、シロエリオオハム、オオハムを総称し、「アビ類」として県鳥に指定しているが、その大半はシロエリオオハムである。呉市豊浜町一帯の海面は「アビ渡来群游海面」として 1931 年に国の天然記念物に指定された。本種の習性を利用した鳥持網代漁 (アビ漁) は、斎島周辺では 1986 年頃まで行われていた。県指定野生生物種。
産地情報	広島市 (東区, 西区, 佐伯区), 呉市 (倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊), 福山市 (福山), 大竹市, 東広島市 (安芸津), 廿日市市 (宮島), 大崎上島町

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. シロエリオオハム. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 64. 広島県.

(日比野政彦)

タマシギ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Rostratula benghalensis benghalensis (Linnaeus, 1758)

チドリ目 タマシギ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	全長は 23.5 cm。鳥類のなかでは珍しく、雄よりも雌のほうが美しい。雌雄とも目のまわりが勾玉のようなアイリングでふちどられ、胸側の白線とそれに続く背の V 字状の黄色い線が目立つ。東南部以南の本州、四国、九州で繁殖する留鳥または漂鳥である。水田・休耕田・蓮田・湿地に生息する。一妻多夫の繁殖習性をもち、育雛は雄が行う。
生息・生育状況	留鳥として、水田・休耕田・蓮田・水深の浅い湿地に生息しているが局地的である。もともと個体数が少なく減少傾向にあったが、近年は個体数の減少や個体群の縮小が著しい。土地造成による土地利用の変化、圃場整備や乾田化などによる水田環境の変化、耕作放棄後の草地の二次遷移で草丈が高くなることなどによって、利用可能な生息地は減少しており、生息環境は著しく悪化している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	市街地近郊では、宅地化などによって生息地は急速に狭められてきた。生息地の多くは人間の生産活動が活発な農地であり、生産性を高めるための乾田化などによって生息適地が減少している。近年は休耕田が繁殖環境として機能していたが、乾燥化や草地化などによって生息に適さなくなっている。開発の影響を受けやすいため、生息地の宅地造成や農地の転用などを防ぐ配慮が必要である。
特記事項	2018 年に西日本を中心に発生した集中豪雨では、一部の個体群が消失するなど重大な影響があった。
産地情報	竹原市、三原市（三原）、尾道市（尾道）、福山市（福山）、三次市（三次）、東広島市（西条、八本松、高屋、黒瀬、安芸津）、安芸高田市（高宮）

上野吉雄・石井秀雄・井原 庸・松本明子・渡辺健三・岡崎賢二 2018. 広島県におけるタマシギの生息状況. 高原の自然史, 18: 67-69.
 渡辺健三 2012. タマシギ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 65. 広島県.
 (渡辺健三)

コアジサシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Sterna albifrons sinensis Gmelin, 1789

チドリ目 カモメ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長が約 30 cm の小型のアジサシである。くちばしは黄色で先が黒い。足も黄色で、頭頂部から後頭部にかけて黒く、額は白い。翼は細長く、尾は又状である。水面上を飛翔しながら、水中に飛び込んで子魚を捕らえる。旅鳥として観察される近似種のアジサシは全長約 35 cm と大きい。また、アジサシ成鳥の夏羽は、頭上全体が黒い。本州以南に夏鳥として渡来し、沿岸部や河川に生息する。海岸や埋立地、河川の中州でコロニーをつくって集団繁殖をする。
生息・生育状況	県内では自然海岸の砂浜や河川の砂礫地での繁殖例はなく、沿岸部の埋立地や造成地などで繁殖する。繁殖地として草の少ない乾いた砂礫地があることが必要であるが、近年は繁殖に適した環境が減少した。埋立地や造成地の本来の利用が始まったり、裸地が草地化したりするためである。また、確認される繁殖地でも、人や捕食動物などの繁殖の阻害によってコロニーが消失し、個体数が著しく減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖地がきわめて限られているため、繁殖の阻害となる人の侵入を規制し、ノイヌ・ノネコ・トビ・カラスなどの捕食動物に対する対策が必要である。 埋立地などにできる一時的な裸地が営巣場所として利用されてきたため、安定した繁殖地がないことがコアジサシの保全の大きな課題である。そのため、繁殖環境の創出についても検討することが望まれる。
特記事項	2020 年には広島市の 2 か所で繁殖行動が確認されたが、以前確認されたそのほかの地点では見られなくなった。
産地情報	広島市（東区、南区、西区、佐伯区）、福山市（福山）、廿日市市（廿日市）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. コアジサシ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 66. 広島県.

(日比野政彦)

イヌワシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Aquila chrysaetos japonica Severtzov, 1888

タカ目 タカ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は雄が 78～86 cm, 雌が 85～95 cm, 翼開長は雄が 170～190 cm, 雌が 190～210 cm であり, 雌のほうが大きい。体重は 3.2～5.5 kg になる大型の猛禽類である。全体に暗褐色で, 頭頂部・頸部・雨覆は黄褐色である。幼鳥は濃褐色で, 両翼と尾羽の基部に白斑がある。山地に生息し, ノウサギ・ヤマドリ・サギ類・ヘビ類などを捕食する。生態系の最上位種であり個体数が少ない。
生息・生育状況	日本全体で繁殖率が低下し, 個体数の減少や個体群の縮小が著しい。とくに西日本では深刻である。広島県では繁殖は確認されていないが, 毎年のように目撃情報がある。生息環境の中でもとくに狩場の環境の質的劣化が著しく, 確認される個体数はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	かつての人工林の増加に加えて, 山地での放牧や草刈り場としての利用がなくなり草地の森林化が進んでいる。そのため, 林冠が閉ざされた森林が増加し, 獲物となる動物の減少とともに, 狩り場として利用できない環境が増加している。イヌワシの生息環境を維持するためには, 放置したスギ・ヒノキ人工林の伐採や列状間伐, 定期的な手入れによる山地の草地の確保など, 狩り場となる環境を増やすことが望まれる。
特記事項	国の天然記念物, 国内希少野生動植物種に指定されている。 広島県では日本最大規模の風力発電計画があることが発表されたが, 計画地はイヌワシの生息地域と重なっており, 開発が進めばイヌワシの生息を脅かすことになると考えられる。
産地情報	庄原市 (高野), 廿日市市 (吉和), 安芸太田町 (戸河内)

石井秀雄 2012. イヌワシ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 64. 広島県.

上野吉雄・石井秀雄 2013. 広島県東部におけるイヌワシの記録. 高原の自然史, 15: 93-95.

(石井秀雄)

コノハズク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

Otus sunia japonicus Temminck & Schlegel, 1844

フクロウ目 フクロウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は 24 cm, 翼開長は 57 cm である。体は灰褐色で複雑な模様がある。羽角があり, 虹彩は黄色である。全身が赤褐色味の強い赤色型もいる。夏鳥として全国の森林に渡来し, 樹洞に営巣する。夜行性で昆虫類を餌とする。
生息・生育状況	県北部の大径木のある落葉広葉樹林で繁殖する。生息環境が限られているので, もともと個体数が少なく, 県内の個体群はきわめて小さい。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	県内に残っている大径木のある落葉広葉樹林の面積はきわめて少ない。さらに, 生息地である森林が, 林道建設や森林伐採などによって消失したり, 面積が減少したりすることが懸念される。残された生息環境をできるだけ維持することが重要である。また, 数少ないブナ林が観光化などでオーバーユースとなることも生息を圧迫する要因になる。
特記事項	—
産地情報	広島市 (佐伯区), 庄原市 (西城, 高野), 廿日市市 (吉和), 安芸太田町 (戸河内)

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

石井秀雄 2012. コノハズク. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 66. 広島県.

(石井秀雄)

ヤイロチョウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②

Pitta nympha Temminck & Schlegel, 1850

スズメ目 ヤイロチョウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は 18 cm。足は比較的長く、尾が短い寸詰まりの体形である。雌雄同色で、赤・黄・緑・コバルトブルーなど非常に美しい羽色をもつ。夏鳥として本州中部以南に渡来し、低山帯のよく茂った森林に生息する。ミミズ・サワガニ・昆虫など、地表性小動物を餌とする。生息域は九州と四国および本州のごく一部に限られる。生息地は孤立していることが多く、全国的にも個体数は少ない。
生息・生育状況	地表性の小動物が豊富な低山帯の森林に生息する。谷沿いのよく茂った常緑広葉樹林や落葉広葉樹が混在するスギ・ヒノキ林で繁殖する。県西部では繁殖が確認されている。県内の観察例は通過個体がほとんどで、繁殖個体数はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種が生息する低山帯の林は二次林として維持管理されてきたため、本種の生息に適した森林はもともと少ない。また、開発や林道建設にもなう樹木の伐採で生息環境の悪化が続いた。近年は、マツ枯れ後の常緑広葉樹林の発達や樹齢の高いスギ林の増加によって、森林性鳥類の生息環境はやや回復傾向にあると考えられる。一方、越冬地の森林は開発にもなう伐採の影響を受け、生息数は減少しているといわれている。
特記事項	姿が美しいことから写真撮影を目的に営巣地にはいる人もおり、繁殖に影響を及ぼすおそれがあるため、営巣地情報の扱いについては注意を要する。
産地情報	広島市（安佐北区）、三原市（三原）、尾道市（尾道）、福山市（福山）、三次市（三次、吉舎、三良坂）、庄原市（西城）、安芸太田町（筒賀、戸河内）、北広島町（芸北、豊平）、神石高原町（豊松）

上野吉雄・河津 功・保井 浩・小柴正記 2000. 広島県西部におけるヤイロチョウの生息地と繁殖生態. 高原の自然史, 5: 85-99.

渡辺健三 2012. ヤイロチョウ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 67. 広島県.

(渡辺健三)

ミゾゴイ 絶滅危惧 II 類(VU) VU-①, VU-②

Gorsachius goisagi (Temminck, 1836)

ペリカン目 サギ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: DD

概要	全長 49 cm で、雌雄同色である。体上面は鮮やかな赤褐色で細かな暗色斑が密にある。下面は淡黄褐色で黒褐色の縦斑が数本ある。頭も鮮やかな赤褐色で、後頭に短い冠羽がある。夏鳥として本州・四国・九州・伊豆諸島に渡来し、低山の森林に生息する。林床または沢などの水辺で、ミミズ・カエル・昆虫・小魚などの小動物を捕食する。繁殖地として知られているのは日本だけである。越冬地や渡りの中継地となる東南アジアにおける森林の伐採も本種の減少要因と考えられ、渡来数自体が減少している可能性がある。
生息・生育状況	県内の観察記録はきわめて少なく、近年は数か所で繁殖が確認されているがまれである。低山帯の薄暗く湿潤な谷に生息している。生息地が鬱蒼とした森林で人目につきにくいいため、県内の生息状況の実態は不明な点が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本種が生息する低山帯の林は、民有林が多いため開発されやすい。確認された繁殖地も、砂防ダムや林道建設などで樹木が伐採され、営巣適地は減少していると考えられる。また、里山の荒廃や耕作放棄によって、密生したヤブが増加し、採餌環境も著しく減少している。生息地が限られているため、営巣が確認された場合は、周辺樹木の伐採の制限などの配慮が必要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（佐伯区）、呉市（呉）、三原市（三原）、尾道市（尾道）、福山市（福山、新市）、三次市（三次、君田）、庄原市（西城、東城）、東広島市（志和）、廿日市市（吉和）、安芸高田市（吉田）、北広島町（豊平）、神石高原町（油木、豊松）

渡辺健三 2012. ミゾゴイ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 68. 広島県.

川名国男 2012. ミゾゴイ ～その生態と習性～. pp. 168. 川名国男. 東京.

(渡辺健三)

ヒクイナ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②
Porzana fusca erythrothorax (Temminck & Schlegel, 1849)
 ツル目 クイナ科

環境省: NT
 広島県 2011: VU
 広島県 2003: NT

概要	全長 22.5 cm。夏鳥として全国の水田や湿地に渡来し、繁殖する。雌雄同色で、背中は灰緑色、頭部から腹部にかけて赤褐色、下腹部には白い横斑模様がある。食性は動物食の傾向が強い雑食で、昆虫・貝・イトミミズ・カエル・草の種子などを食べる。本州中部以南では越冬する個体もいる。
生息・生育状況	夏鳥として渡来するが個体数は少ない。近年は越冬する個体も多い。警戒心が強く、茂みを潜行するので目撃する機会は少ないが、県内に広く分布している。水田や河川・湖沼のアシ原などに生息・繁殖している。開発による湿地の消失や土地利用の変化で生息地は狭められており、個体群の縮小や個体数の減少が著しい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地は人間の生産活動が活発な場所であり、土地造成による生息地の消失、圃場整備による農地の改変や乾田化、河川改修によるアシ原の減少などで生息環境は著しく悪化している。
特記事項	—
産地情報	広島市（南区、安佐北区）、呉市（呉、倉橋）、竹原市、三原市（三原、久井）、尾道市（尾道）、福山市（福山）、三次市（三次、吉舎、三良坂）、庄原市（総領）、東広島市（西条、黒瀬）、安芸高田市（吉田）、熊野町、北広島町（千代田）、大崎上島町（大崎）

上野吉雄・石井秀雄・加藤淳司 2015. 広島県内陸部におけるヒクイナ *Porzana fusca* の繁殖. 高原の自然史, 16: 89-92.

渡辺健三 2012. ヒクイナ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）— レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 70. 広島県.
 (渡辺健三)

ヨタカ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②
Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel, 1844
 ヨタカ目 ヨタカ科

環境省: NT
 広島県 2011: VU
 広島県 2003: NT

概要	全長は約 29 cm。全身が枯葉を敷きつめたような複雑な模様をしている。夏鳥として全国に渡来し、林縁・伐採跡地・草地などの開けた場所で繁殖する。地上に2卵を産卵する。飛びながら、飛翔昆虫を捕らえて餌とする。夜間、キョキョキョ…と大きな声で鳴く。
生息・生育状況	全国的に生息地や個体数の減少が著しい。県内でも、以前は生息していた地域で見られなくなるケースが多い。とくに、沿岸部での生息地の消失が著しい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	里地里山の管理放棄による二次林や二次草地の遷移が進んでおり、開けた環境を好むヨタカの生息適地が減少している。また、人工林の成長にともなって閉ざされた森林が増加していることも、生息状況の悪化の一因であると考えられる。伐期を迎えた人工林の伐採が行われ始め、一時的に繁殖適地が出現するが、長期的には繁殖地の増加にはつながらない。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐南区、安佐北区、佐伯区）、府中市、庄原市（庄原）、廿日市市（廿日市、佐伯、吉和）、安芸高田市（八千代）、安芸太田町（加計、戸河内）、北広島町（芸北）

石井秀雄 2012. ヨタカ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）— レッドデータブックひろしま 2011 —, p.71. 広島県.

上野吉雄・保井 浩・小柴正記・藤原俊二・若本啓二・沖田 武・森口龍人 2014. 北広島町の鳥類. 北広島町の自然, p. 626. 北広島町教育委員会.

(石井秀雄)

チュウヒ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Circus spilonotus spilonotus Kaup, 1847

タカ目 タカ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	全長は雄が約 48 cm, 雌が約 58 cm で, 雌のほうが大きい。羽色は変異が大きい。雄の成鳥は上面が暗褐色で風切に灰色味があり, 腰が白い。下面はやや淡い色合いである。おもに鳥類を捕食する中型のタカで, 冬鳥として広いアシ原や農耕地などに飛来する。条件のよい越冬地では, アシ原などのねぐらとその周辺に広い餌場が見られる。しかし, 広島県にはチュウヒが長期間定住できるような越冬地はほとんどなく, 多くの場合は一時的な滞在である。
生息・生育状況	チュウヒが定住できるような広いアシ原などの湿地は, 県内にはもともと少なく稀少である。県東部の平野部では, 岡山県の笠岡干拓を主要な生息地とする個体が飛来していると考えられる。また, 大崎上島町の干拓地で少数が越冬していた。その他では, 河口付近のアシ原や河川敷, 牧場や広い農耕地などで, 移動中の個体が一時的に確認される。国内で繁殖する個体群と越冬個体群が見られるが, 県内では繁殖の記録はない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	広島県には生息に適した広いアシ原をもつ湿地はもともと少ないが, 沿岸部の開発や河川環境の整備によって生息適地はさらに減少している。県東部では岡山県笠岡干拓と連続した平野部の生息地(チュウヒの行動圏)が広がっているが, 開発にともなって生息適地が分断されている。定期的な飛来が見られる場所はきわめて重要であり, 生息に適したアシ原や草草が広い面積で維持されることが必要である。
特記事項	—
産地情報	広島市, 三原市, 福山市, 庄原市, 東広島市, 大崎上島町

(井原 庸)

サシバ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Butastur indicus (Gmelin, 1788)

タカ目 タカ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: DD

概要	全長は雄が約 47 cm, 雌が約 51 cm で, 雌のほうがやや大きい。体の上面は褐色で, 喉に太い縦線がある。雄は顔が灰色で, 雨覆が赤みのある褐色, 雌は全体が褐色である。雌にははっきりした眉斑があるが, 雄は不明瞭である。幼鳥は, 眉斑が大きく, 下面が淡いバフ色で太い縦斑がある。夏鳥として 4 月に飛来し, 低地から山地のアカマツ林などの二次林で繁殖する。越冬地は南西諸島や東南アジアである。幼鳥は 5 月頃に生まれた営巣地の近くに遅れて飛来する。地上に飛び降りて餌を捕獲することが多く, 餌は小型哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫類などさまざまである。
生息・生育状況	県内各地に分布し, 低山の二次林に営巣するが, 個体数は明らかに減少している。1980 年代には山間部では 2~3 km の間隔で営巣地があり, 比較的普通に見られるタカであった。しかし, その後は減少傾向がみられ, 2000 年くらいからは生息数の減少が著しい。2010 年と 2011 年に県中部のかつての生息適地で調査を実施したが, 営巣密度は明らかに低く, 確認された巣間距離は約 5 km であった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	全国的に個体数が減少している地域が多く, 採餌環境の悪化が指摘されている。広島県でも, 2000 年以降くらいから, 生息数の減少が著しい。しかし, 山口県や島根県などの近隣地域では生息密度の高いところがあり, 本当の減少要因はよくわかっていない。保全を検討するにあたり, 県内における個体数減少の原因を明らかにすることが緊急の課題である。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 海田町, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町

松本明子 2012. サシバ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 69. 広島県.

(井原 庸・松本明子)

クマタカ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) NT-b (種々の状況を加味してランクを上げた)

Nisaetus nipalensis orientalis (Temminck & Schlegel, 1844)

タカ目 タカ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	大型のタカ類で、全長は雄が70~75 cm、雌が77~83 cmくらいである。雌のほうが大きい。羽色は雌雄でよく似ている。頭は黒っぽく、上面は褐色から暗褐色である。飛翔しているときに下面から見ると、風切や尾羽の黒い横帯が目立つ。北海道から九州までの各地に留鳥として生息し、広島県では沿岸部の低地・丘陵地や島嶼部をのぞいて分布している。標高差のあるまとまった大きな山塊を行動圏とし、山麓の谷部などの発達した森林内に営巣する。
生息・生育状況	県中南部の山地から北部にかけて広く分布し、生息数は150つがいを超えると推定される。県北部の生息地では、巣間距離が3~5 km程度になることが多い。生態系上位種であるため個体数はもともと少ないが、近年の生息状況は安定している。繁殖率がきわめて低いと指摘されたこともあるが、少なくとも広島県で本種の営巣が確認され始めた1980年代から生息個体数は減少していないと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	県南部では生息に適した森林が分断されている。また、生息に適した広い森林は、開発などによって分断される可能性がある。とくに、中国山地では風力発電の計画が多く、今後の生息環境の悪化が懸念されるため、生息状況のモニタリングが必要である。少産で育児にコストをかけるという繁殖様式であり、再生産能力が小さいため、一度個体群が衰退してしまうとその回復に時間がかかる。
特記事項	現在の安定した生息状況からみると、カテゴリーの定義から準絶滅危惧に該当すると考えられるが、生態的な特性や近隣の県との整合性を考慮して絶滅危惧Ⅱ類のままとした。生態系の上位種であるため、大型で行動圏が広く、もともと生息数が少ない。そのため、生息基盤がやや脆弱であり、今後は風力発電などの山地の開発によって生息環境の悪化が懸念されている。
産地情報	広島市、呉市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、神石高原町

井原 庸・松村俊幸・橋本 隆 2006. 潜在的な生息適地によるクマタカの生息地評価 — 中国横断自動車道における新しい調査・評価手法の取り組み. 道路と自然, 127: 49-52.

吉津祐子・畑本英信・山田勝美・加藤淳司・上野吉雄 2008. ダム事業におけるクマタカの保全と行動圏の変化及び幼鳥の餌内容. 高原の自然史, 13: 35-51.

(井原 庸)

コミミズク 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Asio flammeus flammeus (Pontoppidan, 1763)

フクロウ目 フクロウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	体長が38 cmの中型のフクロウ類である。羽角が短く、顔盤が発達している。雌雄同色で、上面は褐色、下面は淡い褐色で暗褐色の縦斑がある。草原性のフクロウで、冬鳥として全国の平地から山地の草地・農耕地・河原・埋立地などに渡来する。昆虫類・小型鳥類・小型哺乳類などを捕食する。日没後に、草原の上を低く飛んで餌を探したり、杭などの上にとまって待ち伏せたりして獲物を捕らえる。夜行性だが昼間も行動することがある。
生息・生育状況	県内には冬鳥として広い農耕地・河川敷・埋立地などの草地に渡来するが、個体数はきわめて少ない。県内の越冬例はまれで、生息環境の悪化によって継続して越冬する場所はない。最近では、2015年2月に福山市松永湾の後背地の耕地で1羽を確認したが、越冬期に観察されることはまれになった。春と秋の渡りの時期に少数の通過個体が観察されるが、夜行性のため確認情報が乏しく、渡りの実態はあまりつかめていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地造成や河川開発によって、生息に適した広い農耕地やアシ原が減少している。採食地と昼間のねぐらとなる草地を併せて保全する必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市(西区, 佐伯区), 尾道市(尾道), 福山市(福山), 北広島町(芸北)

渡辺健三・渡辺貴美恵 1992. 広島県藤井川河口で越冬したコミミズク. 比婆科学, 153: 1-7.

渡辺健三 2012. コミミズク. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 71. 広島県. (渡辺健三)

ヤマセミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Megaceryle lugubris lugubris (Temminck, 1834)

ブッポウソウ目 カワセミ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長は 38 cm。日本産カワセミ類では最大で冠羽が目立つ。体上面は白と黒のまだら模様で、下面は白。雄は胸に黄褐色の帯と黒い斑点があり、雌は黒斑が帯状にある。留鳥として北海道から九州にかけて分布し、山地の谷や溪流、湖沼などに生息する。川沿いの枝にとまってダイビングし、魚類を捕食する。急勾配の崖地に巣穴を掘って繁殖をする。
生息・生育状況	山間部のダム湖や河川中流域から上流域にかけて生息する。1980年代は県内全域で見られたが、近年は減少傾向が著しい。とくに中流域の個体数の減少が目立ち、県南部の河川や湖沼で観察されることはまれになった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	落石防護工事などともなって営巣適地である崖地が減少している。河川改修工事や河川沿いの道路建設などにより、餌場や休憩場所として利用している河畔林や竹藪が減少し、採食に適した河川環境は悪化している。また、ヤマセミと同様に中型魚類を餌とするカワウ、アオサギ、ダイサギが増加しており、ヤマセミの減少の一因になっている可能性がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）、呉市（呉）、三原市（三原、大和、本郷）、尾道市（御調）、福山市（福山、新市）、府中市（府中、上下）、三次市（三次、甲奴、君田、布野、作木、吉舎、三良坂）、庄原市（庄原、総領、西城、東城、口和、高野、比和）、東広島市（黒瀬、河内）、廿日市市（吉和）、安芸高田市（八千代、高宮）、安芸太田町（加計、筒賀、戸河内）、北広島町（芸北、大朝、千代田、豊平）、世羅町（世羅、甲山、世羅西）、神石高原町（油木、神石、豊松、三和）

渡辺健三 2012. ヤマセミ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 78. 広島県.
日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(渡辺健三)

マミジロ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Zoothera sibirica davisoni (Hume, 1877)

スズメ目 ヒタキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長は 24 cm, 翼長は 12~13 cm, 体重は 60~80 g である。雄は全身黒色で、白色の太い眉斑がある。雌は全身褐色で白い眉斑があり、胸から腹にかけて淡褐色斑がある。おもに本州中部以北の森林に夏鳥として渡来する。県内ではブナ林で少数が繁殖する。昆虫やミミズ、木の実などを餌とする。木の股に草の茎や小枝を用いて椀型の巣を造り繁殖する。
生息・生育状況	県内では、まとまった面積のブナの大径木からなる森林に生息している。これまでのところ、臥龍山、比婆山、三次市君田町の3か所しか繁殖地が知られていない。近年、臥龍山や比婆山での繁殖個体数が、それぞれ1つがいくらいまで減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地であるまとまった面積の広葉樹林は伐採されてきた歴史があり、もともと生息適地になる森林が少ない。また、最近ではカケスによる巣内ビナの捕食がよく見られるようになった。
特記事項	—
産地情報	三次市（君田）、庄原市（西城）、北広島町（芸北）

上野吉雄 2012. マミジロ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 78. 広島県.

上野吉雄・保井 浩・小柴正記・藤原俊二・若本啓二・沖田 武・森口龍人 2014. 北広島町の鳥類. 北広島町の自然, p. 636. 北広島町教育委員会.

(上野吉雄)

ササゴイ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Butorides striata amurensis (Schrenck, 1860)

ペリカン目 サギ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長は 52 cm。頭部は黒く、背面は黒褐色、腹部は灰色で、眼と足は黄色である。本州以南に夏鳥として渡来する。ほかのサギ類と一緒にコロニーをつくらず、本種だけで営巣する。ササゴイはゴイサギより小さく、翼が黒褐色である。
生息・生育状況	全国的に継続的な減少傾向がみられる。市街地の近くに生息することが多く、広島市平和大通りの街路樹に繁殖コロニーが毎年観察されていたが、近年はまとまった個体数が見られなくなった。また、各地の繁殖地でも単独の営巣が多く、県内全域で個体数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年、ササゴイやゴイサギなどの中・小型サギ類の個体数が全国的に減少しているが、その原因は不明である。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区、東区、西区、安佐北区、佐伯区）、福山市（沼隈）、廿日市市（廿日市）、海田町、安芸太田町（加計）、世羅町（甲山）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(日比野政彦)

クロサギ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Egretta sacra sacra (Gmelin, 1789)

ペリカン目 サギ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長は 60 cm より少し大きく、コサギくらいである。全身がやや青みがかった黒灰色で、頭部に短い冠羽がある。足は鈍い黄色で、コサギに比べると短く見える。黒色型と白色型がいるが、広島県（本州・九州）では白色型はみられない。本州以南に留鳥として生息し、北海道では夏鳥である。沿岸部や島嶼部に生息し、海岸や干潟などで採食する。とくに岩礁のある海岸を好み、1~2羽でいることが多い。また、ほかのサギ類のように繁殖コロニーを作らず、岩礁などに単独で営巣する。
生息・生育状況	広島県では、沿岸部や島嶼部に生息する。岩礁のある海岸で見られることが多く、岩棚や崖地の岩の間隙などに営巣する。もともと生息数は多くないと考えられるが、自然海岸などの減少にともなって生息地がせばめられ、個体数が減少した可能性が高い。また、現在も海岸の改変にともなって、営巣適地が減少していると考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	岩礁の崖地に営巣するため、営巣場所が限られている。そして、自然海岸の減少にともなって、営巣適地が減少していると考えられる。また、釣り人などの意図しない巣への接近が、繁殖行動に影響する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	広島市、呉市、竹原市、尾道市、福山市、大竹市、廿日市市、江田島市、大崎上島町

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(井原 庸)

クイナ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Rallus aquaticus indicus Blyth, 1849

ツル目 クイナ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長は 29 cm。雌雄同色で、全身がオリーブ褐色、体上面には黒褐色の縦斑がある。嘴は赤くて細長く、腹と脇には白と黒の横斑がある。北海道や東北地方で繁殖し、それ以南の地方には冬鳥として渡来する。河川や湖沼のアシ原、水田などの湿地に生息する。餌は、昆虫や小魚などの動物質から草の実などの植物質まで広範である。警戒心が強く、開けた環境に姿を現すことが少ない。
生息・生育状況	冬鳥として渡来するが個体数は少ない。県内では、多雪地域を除き、平地から低山にかけて広く分布している。河川中・下流域および湖沼のアシ原や草むら、水田や休耕田とその周辺の湿地や草むらなどに生息している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川工事・宅地造成・土地改良による乾田化などで、生息環境は悪化しており、それにとまって個体数も減少している。水田を含む湿地を保全し、水辺の自然再生に努める必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐南区、佐伯区）、三原市（三原）、尾道市（尾道、因島）、福山市（福山）、三次市（三次）、東広島市（黒瀬）、北広島町（豊平）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

渡辺健三 2012. クイナ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 75. 広島県. (渡辺健三)

ダイゼン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Pluvialis squatarola (Linnaeus, 1758)

チドリ目 チドリ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長が約 30 cm の大型のチドリである。夏羽では体の下面が黒く、飛行時に翼の下の脇が黒い。冬羽は体の上面が灰褐色で白い斑紋がある。シベリアの北部で繁殖し、旅鳥または冬鳥として春と秋の移動時期や越冬期に河口や干潟で観察される。近似種のムナグロは、体の上面に黄色味がある。
生息・生育状況	河口などの干潟で春と秋の移動時期と越冬期に少数が観察される。県内では安定して生息が確認される干潟は限られており、比較的普通に見られる種であるが、個体数は継続的に減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	餌場となる干潟を保全することは当然であるが、干潟が水没する満潮時に休息できる後背地などの環境の確保が重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（西区、佐伯区）、福山市（福山）、廿日市市（廿日市）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. ダイゼン. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 76. 広島県. (日比野政彦)

イカルチドリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Charadrius placidus Gray & Gray, 1863

チドリ目 チドリ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長が 21 cm 前後の小型のチドリである。全国に分布しているが、北日本のものは冬は暖かい地方へ移動する。河川中流より上の中州や河原などの地上に営巣する。近似種のコチドリに比べて大きく、くちばしも長い。顔面の黒色部や、足や目の外縁の黄色も淡い。
生息・生育状況	もともと個体数が多い種ではないが、近年は減少傾向にある。繁殖期にはつがいで生息するが、冬季は 10 羽以上の群れになることもある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖環境が限られているため、河原のある河川環境を維持する必要がある。中州や河原で営巣するため、増水による巣の流出やカラスなどの捕食者による繁殖失敗が多い。
特記事項	—
産地情報	広島市（東区、西区、安佐南区、安佐北区、佐伯区）、竹原市、三原市（本郷）、福山市（福山）、三次市（君田、三良坂）、廿日市市（吉和）、安芸高田市（八千代、甲田）、安芸太田町（加計）、北広島町（千代田）、世羅町（世羅西）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. イカルチドリ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 75. 広島県.

(日比野政彦)

ハマシギ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Calidris alpina sakhalina (Vieillot, 1816)

チドリ目 シギ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長が約 21 cm で、やや長めのくちばしをもった小型のシギである。夏羽は腹部が黒くなる。くちばしと足は黒い。よく似たサルハマシギのくちばしはさらに長く、ミュビシギのくちばしはハマシギより短い。シベリアで繁殖し、冬鳥または旅鳥として干潟や河川で観察される。干潟で観察されるシギのなかでは個体数が多いが、近年は越冬個体数が減少している。
生息・生育状況	2000 年以降は、県東部の松永湾で越冬する個体数は 300 羽程度、県西部の干潟では 100 羽以下である。そのほかの沿岸部や内陸部でも少数の個体が春と秋の渡りの時期に観察される。春の渡りでは秋より多くの個体数が見られるが、以前のように 1000 羽を超す群れを見ることはなくなった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ハマシギの減少の主要な原因は繁殖地の環境の変化であると考えられているが、越冬する個体が安定して餌が獲れる干潟を保全することが重要である。また、満潮時でも休息できる後背地があることが生息地となる条件である。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区、西区、佐伯区）、呉市（呉、音戸）、福山市（福山）、三次市（三次）、東広島市（黒瀬、安芸津）、廿日市市（廿日市）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. ハマシギ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 114. 広島県.

(日比野政彦)

ズグロカモメ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Larus saundersi (Swinhoe, 1871)

チドリ目 カモメ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	全長 32 cm 前後の小型のカモメである。冬鳥として渡来し、九州には比較的多い。本州西部の海岸や河口干潟にも渡来するが、ユリカモメほど個体数は多くない。餌の取り方に特徴があり、干潟の上を飛びながら餌を探し、見つけると降下してカニなどを捕らえる。夏羽の頭部はユリカモメと同様に黒色になる。ユリカモメに似ているが、くちばしは黒くて短い。
生息・生育状況	県内では、1980年代まではきわめてまれな冬鳥であった。その後、分布域の拡大とともに定期的に見られるようになったが、最近では再び個体数が減少している。冬季に広島湾や福山市一帯の沿岸部の干潟でユリカモメに混じって観察される。福山市松永湾や廿日市市御手洗川河口ではほぼ毎年渡来しているが、同時に観察される数は数羽から10羽程度と個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	九州には比較的多く、1990年代には分布の拡大ともなって本州西部の定期的な飛来地や個体数は増加した。しかし、原因は不明であるが、最近では確認される個体数が少なくなっている。干潟で採餌することが多く、定期的に飛来する干潟は豊かな生物多様性を示す環境として重要である。
特記事項	—
産地情報	広島市（西区、佐伯区）、福山市（福山）、東広島市（安芸津）、廿日市市（廿日市）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. ズグロカモメ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第3版）— レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 77. 広島県.

(日比野政彦)

カンムリウミスズメ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Synthliboramphus wumizusume (Temminck, 1836)

チドリ目 ウミスズメ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長 24~26 cm. ウミスズメ類としてはもっとも南に分布し、日本列島周辺と朝鮮半島南部の島嶼部で繁殖する。雌雄同色で、成鳥の夏羽は頭頂に黒い冠羽がある。イワシなどの小魚や小型のエビ類などを海中に潜って捕食し、離島の崖穴や岩の割れ目や草の間などに営巣する。 国内の総個体数は5,000~10,000羽程度と推定され、世界のウミスズメ類の中でも極端に個体数が少ない。さらに、近年減少傾向にある。
生息・生育状況	全国の海域に生息し、冬期は中部以南に多い。夏期は本州中部や九州沿岸部の岩礁や離島で繁殖する。県内では、大竹市白石から広島湾・呉湾・呉市大崎下島にかけての広い海域に生息しているが、呉市の海域がもっとも生息密度が高い。周年生息しているといわれているが、夏期の個体数をもっとも多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	広島県沿岸部にもっとも多く生息する時期は換羽期であり、飛行能力が弱くなるため、レジャーボートなどによる人為的錯乱の危険性がある。また、刺し網漁での混獲が懸念される。 生息域が瀬戸内海であることから具体的な保護策はたてにくい。本種の保全に対する県民に向けた啓発プログラムを確立する必要がある。
特記事項	文化財保護法による国の天然記念物である。
産地情報	広島市（中区、南区、西区、佐伯区）、呉市（呉、倉橋）、江田島市（江田島）、大崎上島町（大崎）

飯田知彦 2009. 広島県およびその周辺におけるカンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* の生息状況について. げいなんの自然, 11: 34-39.

飯田知彦 2010. 瀬戸内海西部におけるカンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* の複数家族群の初確認. 日本鳥学会誌, 59: 73-75.

(渡辺健三)

ハチクマ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Pernis ptilorhynchus orientalis Taczanowski, 1891

タカ目 タカ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長は雄が約 57 cm, 雌が約 61 cm で, 雌のほうがやや大きい。羽色は変異が多いが, 上面は褐色から暗褐色で下面は褐色のものや白っぽいものがある。雄は顔が灰色で, 虹彩は暗褐色, 尾羽の基部と先に太い黒色帯がある。雌は虹彩が黄色で, 羽色は変異に富んでおり, 尾羽の横帯が不明瞭である。夏鳥として 5 月頃飛来し, 北海道から九州の各地の低山で繁殖する。広島県では, 渡りをするタカとして有名であるが, 渡り途中の移動個体が見られるだけでなく, 県内の各地で繁殖している。ハチの幼虫を好んで食べるめずらしいタカであり, そのほかにカエルなどの両生類や爬虫類を捕食する。
生息・生育状況	県内に広く生息し, 比較的なだらかな地形のアカマツ林・混交林・落葉広葉樹林などの二次林に生息する。大型の捕食者で広い行動圏をもつため, もともと個体数は多くない。県内の確実な繁殖記録は少ないが, 繁殖期の観察例は多く, 開発事業などにもなう環境調査では各地で非公表の繁殖情報が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	行動圏が広く, 営巣木は年によって変わることが多い。したがって, 特定の営巣地を保護することでハチクマが守れるわけではない。生態的な特性から, 森林の環境変化にもなう営巣環境や繁殖期の餌条件が制限されやすいと考えられる。クロスズメバチやカエル類などに依存した特異な食性であるため, 地域の多様な里山環境が広く維持されることが保全につながる。
特記事項	開発事業にもなう環境調査によって繁殖が確認されることが多いが, 情報を共有するしくみがないため, 県内の生息状況の動向が把握できていない。情報不足に近い準絶滅危惧である。
産地情報	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町

藤野 徹 2018. ハチクマの繁殖例. 比婆科学, 264: 33.

(井原 庸)

オオタカ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Accipiter gentilis fujiyamae (Swann & Hartert, 1923)

タカ目 タカ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	全長は雄が 47~53 cm, 雌が 54~59 cm くらいで, 雌のほうが明らかに大きい。成鳥は上面が暗青灰色から暗灰褐色で, 幼鳥は上面が褐色である。同じ属のハイタカに比べると大型である。北海道から九州までの各地で繁殖する。全国的に生息数が増加し, 都市近郊でも繁殖が確認されるようになってきている。広島県では, 島嶼部をのぞく多くの市町で繁殖が確認されている。繁殖するオオタカは留鳥として一年中生息している。しかし, 冬鳥として越冬期に飛来したと考えられる個体や渡りの時期の移動個体と考えられるものも見られる。
生息・生育状況	鳥類を捕食する生態系上位種で個体数は少ないが, 県内各地の比較的発達した二次林で繁殖していると考えられる。開発にもなう環境調査などによって各地で非公表の繁殖情報がある。全県的な生息状況は不明であるが, 生息数が増加しているとはいえない。また, 地域によっては, マツ枯れによって営巣に適したアカマツ二次林が減少していると考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	従来の開発事業における保全対策では, 営巣時期の工事の中断や営巣場所の保護という短期間の直接的な影響の回避だけに注目されることが多い。しかし, 営巣場所はしばしば変更され, 将来にわたって固定したものではない。そのため, 景観レベルのスケールで多様な環境を残しながら, 繁殖つがいまたは地域の個体群の生息条件を長期的に維持するという視点が重要である。
特記事項	環境省レッドリストでは, 2014 年に絶滅危惧Ⅱ類から準絶滅危惧になった。広島県ではオオタカが増加しているという調査結果はない。調査頻度の増加や, 最近の調査精度の向上によって, 繁殖情報が増加して見かけ上の生息数(繁殖数)が増加したと考えられる。一方, マツ枯れによって営巣に適したアカマツ二次林が減少した地域があり, オオタカの生息数や営巣環境がどのように変化しているかを把握する必要がある。
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町

藤野 徹 2010. オオタカの繁殖例. 比婆科学, 236: 32.

藤野 徹・上野吉雄 2020. 広島県南西部におけるオオタカの繁殖状況. 高原の自然史, 20: 23-25.

(井原 庸)

アオバズク 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel, 1845)

フクロウ目 フクロウ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長が 30 cm 弱の小型のフクロウである。頭部から体の上面は黒褐色、下面は白地に黒褐色の太い縦斑がある。目は黄色で、耳羽はない。日本に夏鳥として渡来し、低地から山地に生息する。山地の森林だけでなく、市街地や人里近くの社寺など、大木のあるところに生息する。夕方から活動し、大型の昆虫などを捕らえて食べる。2 声ずつ繰り返す特徴のある鳴き方で鳴く。
生息・生育状況	市街地や人里近くの社寺や学校などの大木のあるところで生息や繁殖が確認されていた。しかし、以前は継続的に繁殖が知られていた場所で、確認できなくなったという情報が増えている。また、人家周辺にも生息しているため、かつては特徴的な鳴き声によって確認されることが多かったが、生息情報が明らかに減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖には樹洞がある大木が必要である。また、餌となる大型昆虫の減少も生息に影響していると考えられる。最近の減少傾向が著しく、現状を把握するための繁殖状況のモニタリングが必要である。夜行性ということもあって直接観察は困難があるが、渡来してくる 5 月頃によく鳴くため生息の確認は比較的容易である。
特記事項	—
産地情報	広島市 (中区, 東区, 安佐南区, 安佐北区, 佐伯区), 呉市 (豊), 福山市 (福山), 三次市 (三次), 庄原市 (西城, 高野), 東広島市 (福富, 河内), 廿日市市 (佐伯, 宮島), 海田町, 安芸太田町 (加計), 北広島町 (千代田)

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(日比野政彦)

ブッポウソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Eurystomus orientalis calonyx Sharpe, 1890

ブッポウソウ目 ブッポウソウ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	全長は約 30 cm, 翼長は 18~20 mm, 体重は 260~290 g である。体全体は金属光沢のある緑色で、頭部はやや黒っぽく、嘴と脚は赤色である。本州以南に夏鳥として渡来する。分布は局地的で、広島県・岡山県・鳥取県には多いが、そのほかの県では個体数が少ない。
生息・生育状況	かつては県北の山地を中心に生息し、木製電柱への営巣が知られていたが、1980 年代から 90 年代にかけて著しく減少した。営巣場所である木製電柱がなくなったことが大きな原因であったと考えられる。近年は巣箱かけによる保護活動が各地で活発に行われており、県中部から北部にかけて分布域の拡大や個体数の増加がみられるようになった。最近の調査によると、2013 年の繁殖つがい数が 363 つがい、2017 年が 421 つがいであった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年の里山の荒廃ともなっていて、餌となる飛翔性昆虫が減少していると考えられる。現在は個体数が増加しているが、巣箱による人為的な保護活動に依存しているため生息基盤は脆弱であり、保護活動の衰退が再び個体数の減少につながるおそれがある。
特記事項	—
産地情報	広島市 (西区, 安佐南区, 安佐北区, 佐伯区), 呉市 (呉), 三原市 (三原), 尾道市 (尾道, 御調), 府中市 (上下), 三次市 (三次, 君田, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市 (庄原, 総領, 西城, 東城, 口和, 高野), 廿日市市 (佐伯), 府中町, 安芸太田町 (加計, 戸河内), 北広島町 (芸北, 大朝, 豊平), 世羅町 (世羅, 甲山), 神石高原町 (油木, 神石, 豊松)

藤田人巳 2018. 広島県のブッポウソウ 一巣箱の利用状況一. 森の新聞, 218: 2-5. 日本野鳥の会広島県支部.

上野吉雄・前田芙沙・浄謙彰文・暮町昌保・中島康弘・松田 賢・近藤紘史・河野弥生・白川勝信・原 竜也 2019. 広島県北広島町における巣箱設置によるブッポウソウ保護の試み. 高原の自然史, 19: 1-4.

(上野吉雄)

ハヤブサ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Falco peregrinus japonensis Gmelin, 1788

ハヤブサ目 ハヤブサ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	全長は雄が 38～45 cm, 雌が 46～51 cm くらいで, 雌のほうが明らかに大きい。成鳥は上面が青灰色から暗灰褐色で, 頭部は黒っぽい。雄は雌より明るい青灰色で, 雌のほうが黒っぽい。雄のほうが細身に相対的に頭が大きく見え, 雌は胴体が太くて頭が小さく見える。幼鳥は上面が暗褐色で, 下面は淡いバフ色で黒褐色の縦斑がある。北海道から九州で繁殖が確認されており, 広島県ではおもに留鳥である。飛翔しながら急降下して餌を捕らえるなど, 中小型の鳥類の捕食に特化した生態をもつ。海岸などの崖地に営巣するが, 最近では採石場跡・工場・鉄塔・市街地のビルなどの人為的な環境で営巣する例も増えている。
生息・生育状況	鳥類を捕食する生態系上位種であるため生息個体数はもともと少ない。島嶼部や沿岸部を中心に分布し, 近年は山間部のダムなどでも観察例が増加している。また, 秋から冬には市街地の上空でも見られることがある。海岸やダム湖周辺の崖地などで営巣することが多いが, 採石場跡や市街地などの人為的な環境での営巣も増えている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自然状態では海岸などの崖地に営巣するため, 営巣に適した環境に限られる。そのため, 自然の営巣適地ではできるだけ現状維持することが望まれる。また, 海岸の営巣地では, 釣り人などの意図しない巣への接近が繁殖行動に影響を及ぼす可能性がある。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 大竹市, 東広島市 (河内), 廿日市市, 江田島市, 大崎上島町, 神石高原町

(井原 庸)

サンショウクイ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles, 1822)

スズメ目 サンショウクイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: DD

概要	全長は約 19～20 cm で, 尾は長めである。ほっそりとした体型で, 浅い波状飛行をする。頭部から背面は灰色で, 雄の頭部は黒い。額と胸から腹部は白色である。夏鳥として本州・四国・九州の森林に渡来する。木の枝に椀型の巣を造る。フライングキャッチという方法で飛翔昆虫を餌とする。春と秋の渡り時期には数羽から 20 羽前後の群れが観察される。最近分布域が拡大している別亜種のリュウキュウサンショウクイ <i>P. d. tegimae</i> は, 背面がやや暗い青灰色, 胸から腹部が灰色で, 額の白色部が小さい。
生息・生育状況	夏鳥として渡来し, 山地の森林で繁殖する。一般には平地から山地の落葉広葉樹林に生息するが, 県内では島根県との県境に近い地域で繁殖が確認されていた。しかし, 最近の 10 年は繁殖確認例が少しずつ増加し, 生息地も拡大している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	一時期は, 落葉広葉樹が伐採され, スギ・ヒノキの植林が広がったため, 生息環境は著しく悪化したと考えられる。近年は森林の伐採も減り, 森林の樹木が生長しているため, 個体数や生息域は増加傾向にある。
特記事項	最近増加傾向にあることや別亜種のリュウキュウサンショウクイが分布拡大していることから, モニタリングによって生息状況の動向を把握する必要がある。
産地情報	広島市 (中区, 東区, 南区, 安佐南区, 安佐北区), 呉市 (蒲刈), 三原市 (久井), 福山市 (福山), 府中市, 三次市 (布野), 庄原市 (西城, 東城, 高野), 大竹市, 廿日市市 (佐伯, 吉和, 宮島), 熊野町, 北広島町 (芸北, 豊平), 神石高原町 (油木)

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

石井秀雄 2012. サンショウクイ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 72. 広島県.

(石井秀雄)

キバシリ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Certhia familiaris japonica Hartert, 1897

スズメ目 キバシリ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長は 14 cm, 翼長は 6~7 cm, 体重は 7~9 g である。雌雄同色で, 体の背面は茶褐色と白の縦縞があり, 腹面は白い。くちばしは細長く, 下に湾曲している。日本では北海道・本州・四国・九州の落葉広葉樹林や針葉樹林などに留鳥として生息する。まとまった面積の森林に生息し, 樹洞やキツツキ類の古巣などに営巣する。昆虫やクモ類などを餌とする。繁殖地はやや局地的で, 西日本での繁殖例は少ない。
生息・生育状況	留鳥として県内の森林で繁殖しているが, 繁殖地は限られていて, 個体数は少ない。これまでのところ, 県内では北広島町臥龍山と廿日市市の吉和冠山と極楽寺山の 3 か所しか繁殖地が知られていない。ミズナラなどの落葉広葉樹林, モミなどの大木のある混交林に生息している。最近では, 広葉樹の成長や樹齢の高いスギ林の増加によって, 生息環境はやや回復傾向にあると考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	かつては広葉樹林の伐採が繰り返されていたため, 県内にはもともと生息適地になる森林が少ない。
特記事項	—
産地情報	廿日市市 (廿日市, 吉和), 北広島町 (芸北)

上野吉雄・保井 浩・小柴正記・藤原俊二 2008. 中国地方におけるキバシリ *Certhia familiaris* の営巣初確認. 高原の自然史, 13: 83-85.

上野吉雄 2012. キバシリ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 83. 広島県.
(上野吉雄)

コサメビタキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Muscicapa dauurica dauurica Pallas, 1811

スズメ目 ヒタキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	全長は約 13 cm. 頭部から体上面は灰褐色で, 喉から体下面は淡色である。明確な模様はなく, あまり目立たない。枝先にとまり, フライングキャッチという方法で飛翔昆虫を捕らえる。さえずりは小さく, 明確なパターンは聞き取りにくい。横枝に木のコブのように見える皿型の巣を造る。
生息・生育状況	春と秋の渡りの時期には県内各地で観察されるが, 繁殖期における観察例や繁殖記録は多くない。生息地である森林の伐採や植林化などで繁殖環境の減少が進み, 一時期は県内での繁殖確認例が著しく減少した。しかし, 最近では森林環境の回復とともに, 増加傾向がみられるようになった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	かつては森林の開発やスギ・ヒノキ林の拡大などともなう落葉広葉樹林の減少によって生息地の消失や縮小が進んだ。また, 越冬地の大規模な森林開発による環境破壊も個体数減少へつながった可能性が指摘されている。
特記事項	最近では増加傾向にあるため, モニタリングによって生息状況の動向を把握する必要がある。
産地情報	広島市 (中区, 南区, 安佐北区), 三次市 (三次), 庄原市 (高野, 比和), 東広島市 (豊栄), 江田島市 (沖美), 北広島町 (芸北, 豊平), 神石高原町 (神石, 三和)

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

石井秀雄 2012. コサメビタキ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 79. 広島県.
(石井秀雄)

シラガホオジロ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Emberiza leucocephalos leucocephalos Gmelin, 1771

スズメ目 ホオジロ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長は 17 cm で、ホオジロ類のなかではもっとも大きい。まれな旅鳥または冬鳥として北海道や日本海側の島嶼部などで記録が多い。雄の成鳥は顔が褐色で頬の部分が白い。雌はホオジロの雌に似ているが、頭頂は灰褐色で腰は赤褐色である。
生息・生育状況	芸北では 1973 年 2 月に初めて確認され、1986 年 11 月に 30 羽以上の渡来が再度確認された。それ以降はほぼ毎年定期的に渡来し、水田地帯で群れが観察されている。個体数は数羽から 30 羽程度の幅で年によって変動がある。ほかの地域での観察例もわずかに報告されているが、きわめてまれであり、継続して渡来していない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年は、本種の写真撮影を目的とした人の数が増えている。採餌中に接近して群れを飛ばすケースもみられ、本種への影響が懸念される。
特記事項	—
産地情報	廿日市市 (吉和)、北広島町 (芸北、大朝)

石井秀雄 2012. シラガホオジロ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 79. 広島県.

上野吉雄・保井 浩・小柴正記・藤原俊二・若本啓二・沖田 武・森口龍人 2014. 北広島町の鳥類. 北広島町の自然, p. 642. 北広島町教育委員会.

(石井秀雄)

カラスバト 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c, DD-d

Columba janthina janthina Temminck, 1830

ハト目 ハト科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長が約 40 cm で、全身が黒色の大型のハトである。雌雄同色で、紫や緑色の金属光沢がある。留鳥として本州・隠岐・対馬・九州・四国・伊豆諸島・小笠原諸島・南西諸島に生息する。瀬戸内海では山口県や愛媛県の島で繁殖が報告されている。温暖な常緑広葉樹林に生息し、液果や堅果を餌とする。瀬戸内海で確認されている生息地では、繁殖期は冬季で、巣は地上に造る。
生息・生育状況	県内では、留鳥として島嶼部に生息している。少数のものが島嶼部のまとまった面積の常緑広葉樹林で繁殖する。前回の RDB の改訂以降に、島嶼部での継続的な調査を行った。これまでのところ、繁殖地と考えられる確実な生息地は県内で 2 か所しか知られていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	確認された生息地では、イノシシの増加による地表の攪乱が見られる。地表に営巣するカラスバトにとって、イノシシの存在は脅威になる。生息地周辺の同様の植生をもつ島嶼部でも、イノシシの存在が分布域の拡大を妨げている可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋)、大竹市

上野吉雄・石井秀雄・井原 庸・松本明子・原 竜也・渡辺健三・畑瀬 淳・梅田加奈子・佐藤周平・林臨太郎・奥山秀輝・平野勝士・岩崎貞治・大塚 攻 2018. 広島県におけるカラスバトの記録. 高原の自然史, 18: 63-65.

(上野吉雄)

ヨシゴイ 情報不足(DD) DD-a

Ixobrychus sinensis sinensis (Gmelin, 1789)

ペリカン目 サギ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	全長 36 cm 前後で、日本で見られるサギ類の中でもっとも小さい。夏鳥として日本に渡来し、ヨシ原に生息する。水田や湿地、湖畔のヨシ原など草の茂った水辺で活動し、草の上を低く飛ぶことが多い。また、人が近づくと、じっと動かなくなるので見つけにくい。体は黄褐色で飛行時には風切りが黒く見える。
生息・生育状況	県内では、中南部や東部の池や川辺で初夏から秋にかけて確認記録があるが、観察例はきわめて少ない。また、最近では確実な繁殖確認がない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	県内には繁殖が可能な十分な広さのヨシ原がないため、もともと生息数は少ないと考えられる。本種をはじめ湿地性の鳥類の利用が可能になるように、小規模であっても湿地やヨシ原の保全が重要である。
特記事項	第3版では2009年に広島市佐伯区の埋立地で繁殖が確認され絶滅危惧Ⅱ類としたが、その後は確実な繁殖記録がないため今回は情報不足にした。
産地情報	広島市(佐伯区)、呉市(安浦)、福山市(福山)、東広島市(西条、黒瀬)、廿日市市(廿日市)、府中町

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. ヨシゴイ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 68. 広島県.
(日比野政彦)

ゴイサギ 情報不足(DD) DD-a

Nycticorax nycticorax nycticorax (Linnaeus, 1758)

ペリカン目 サギ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長が 57 cm 前後の中型のサギである。頭部と背面は青みがかった暗灰色、後頭部に白くて長い冠羽があり、目は赤い。成鳥と幼鳥とでは羽の色がまったく異なる。本州以南に周年生息する。おもに夕方から夜に活動し、水田・湿地・湖沼・河川・海岸などの水辺で見られる。ほかのサギ類と一緒にコロニーで集団繁殖する。よく似たササゴイと比べると大きく、翼が黒褐色でなく灰色である。
生息・生育状況	かつては県内のサギ類のなかで比較的個体数が多い種であったが、近年はコサギなどの中・小型サギ類と同様に個体数が減少している。とくに、ゴイサギの減少は著しく、最近ではサギ山と呼ばれるサギ類の繁殖コロニーのなかで、ゴイサギが見られることがまれになっている。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	1970年代から90年代にかけてアマサギとともに全国的に分布を拡大させていた。しかし、現在は減少傾向が著しいことが知られている。生息場所や餌が似ているサギ類のうち、大型のアオサギとダイサギは増加しているが、ゴイサギなどの中・小型のサギ類は減少している。繁殖コロニー内の巣の場所や餌の競合などの可能性も考えられるが、減少した理由は不明である。
特記事項	—
産地情報	広島市(中区、東区、安佐南区、安佐北区、佐伯区)、呉市(蒲刈)、三原市(三原、本郷)、尾道市(尾道)、福山市(福山、沼隈)、府中市(府中)、三次市(三次、君田)、東広島市(西条、河内、安芸津)、廿日市市(廿日市、宮島)、安芸高田市(吉田、高宮、甲田)、海田町、安芸太田町(加計、筒賀、戸河内)、大崎上島町(大崎)、世羅町(世羅西)

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(日比野政彦)

アマサギ 情報不足(DD) DD-a

Bubulcus ibis coromandus (Boddaert, 1783)

ペリカン目 サギ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長が 50 cm 前後の白色のサギである。夏羽では頭部が亜麻色（橙黄色）になり、くちばしは黄色い。近似種のコサギは脚が黒くて足指が黄色である。冬羽では全身が白くなりチュウサギに似ているが、チュウサギより小さい。おもに夏鳥として本州以南に渡来し、一部は日本の南部で越冬する。農耕地や草地などで見られ、昆虫などを食べるが多いが、カエル・魚・甲殻類なども捕食する。
生息・生育状況	かつては県内でほかのサギ類に混じって少数が繁殖していた。もともとサギ類の中で観察される数が多い種ではなかったが、近年は減少傾向が著しい。サギ山と呼ばれるサギ類のコロニーで、アマサギが観察されることがまれになった。大型のアオサギとダイサギは増加しているが、チュウサギを除く中・小型のサギ類は減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	1970年代から90年代にかけてアマサギは全国的に分布を拡大させていた。しかし、原因は不明であるが、現在は減少傾向が著しいことが知られている。
特記事項	—
産地情報	広島市（東区、安佐北区）、三原市（三原）、福山市（福山）、三次市（三次、君田）、東広島市（福富、安芸津）、廿日市市（佐伯、吉和）、安芸高田市（吉田、八千代）、安芸太田町（筒賀、戸河内）、北広島町（芸北）、大崎上島町（大崎）、世羅町（世羅西）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

(日比野政彦)

アマツバメ 情報不足(DD) DD-a

Apus pacificus kurodae (Domaniewski, 1933)

アマツバメ目 アマツバメ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長は 20 cm 前後で、翼開長は 40 cm 以上になる。夏鳥として全国に渡来し、海岸や山地の崖に営巣する。鎌型の翼で飛びながら飛翔している昆虫を捕らえる。体色が似ているイワツバメは小さく、飛翔速度が遅い。
生息・生育状況	県内では春から夏の繁殖期にはおもに瀬戸内沿岸部で観察される。渡りの時期には山地や低地でも群れが観察される。県内の確認された繁殖地は人が近づけない海上の岩礁に限られる。大竹市白石岩礁では1988年に繁殖が確認され、その後も継続して毎年繁殖しているようである。近年の調査では、そのほかの繁殖地は明らかにできていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖地がきわめて限られているため、確認された営巣地の岩礁は可能な限り現状維持されることが望ましい。また、カテゴリーは情報不足であるが、新たな繁殖地が確認された場合は絶滅危惧として保全に努めることが求められる。
特記事項	—
産地情報	広島市（西区、安佐南区、佐伯区）、呉市（呉、蒲刈）、三原市（三原）、尾道市（尾道、向島）、三次市（三次、君田）、大竹市、廿日市市（廿日市）、安芸高田市（吉田）、北広島町（芸北）、世羅町（世羅）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. アマツバメ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 82. 広島県.

(日比野政彦)

オシドリ 地域個体群(LP) LP-①

Aix galericulata (Linnaeus, 1758)

カモ目 カモ科

環境省: DD

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	全長は約 45 cm で、カモ類のなかでは小型である。雄はカラフルで、後頭部には冠羽状の羽毛があり、三列風切の一部が広がり銀杏羽と呼ばれる。一方、雌は灰暗褐色で、眼の周りが白く、性的二型が顕著である。本州以南に冬鳥として比較的多く渡来するが、繁殖する個体群も見られる。
生息・生育状況	広島県ではおもに冬鳥として渡来し、個体数はあまり多くないが越冬個体群は県内各地で見られる。繁殖期は河川上流部や溪流、森林に囲まれたダム湖などに生息する。県内の繁殖個体群の実態はよくわかっていないが、県北部を中心に少数が繁殖している。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	営巣可能な樹洞のある大径木や、その生育環境である発達した河畔林がみられる溪流が減少している。繁殖地では、水辺環境の保全だけでなく、営巣場所となる森林や幼鳥の安全が確保される生息場所など、行動圏全体を配慮した広域的な保全が重要である。
特記事項	広島県では冬鳥として渡来する個体群が主体であり、越冬期には各地のダム湖・河川・ため池などに生息している。一方、県北部を中心に少数が繁殖しており、繁殖個体群を「絶滅のおそれのある地域個体群」の対象とした。
産地情報	三次市、庄原市、安芸太田町、北広島町

(井原 庸)

シロチドリ 地域個体群(LP) LP-①

Charadrius alexandrinus dealbatus (Swinhoe, 1870)

チドリ目 チドリ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長 17 cm 前後の小型のチドリである。体の下面は白く胸帯は中央で切れている。足は黒い。海岸や河口域の砂州、埋立地などで繁殖する。秋冬は干潟などで群れが見られる。近年、繁殖個体が減少している。近似種のメダイチドリは少し大きく、体の下面は赤褐色である。
生息・生育状況	県内では自然海岸の砂浜などでの繁殖例はない。沿岸部の埋立地や造成地にできる人為的な環境が一時的な営巣場所として利用されるが、きわめてまれである。福山市松永湾の埋立地では、継続的に繁殖が確認されている。一方、越冬個体は普通に見られるが、近年は個体数が減少している。渡り時期や越冬期に廿日市市御手洗川河口と福山市松永湾の河口で 100 羽程度の群れが観察されたことがあるが、近年はまれである。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	繁殖地である松永湾の埋立地では、ノイヌによる繁殖への影響がある。繁殖地がきわめて限定されており、繁殖地が確認された場合は、繁殖の阻害となる人の侵入や利用を規制し、ノイヌなどの捕食動物に対する対策が望まれる。
特記事項	越冬期には普通に見られるが、繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。対象は広島県で繁殖するシロチドリで、越冬期に飛来するものは含まれない。
産地情報	広島市（西区、佐伯区）、尾道市（尾道）、福山市（福山）、三次市（君田）

日本野鳥の会広島県支部 2002. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 268 pp. 中国新聞社, 広島.

日比野政彦 2012. シロチドリ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 81. 広島県.

(日比野政彦)

ハイタカ 地域個体群(LP) LP-①

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell, 1833)

タカ目 タカ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	全長は雄が 30～33 cm, 雌が 37～40 cm くらいで, 雌のほうが明らかに大きい。雄成鳥は上面が暗青灰色から淡灰褐色で, 雌はやや褐色を帯びる。幼鳥は上面が褐色である。同じ属のオオタカに比べると小型である。北海道・本州・四国で繁殖が知られているが, 九州でも繁殖の可能性はある。西日本では冬鳥として越冬期に飛来するものが多い。広島県では, 越冬期には各地で普通に見られる。繁殖する個体群は留鳥として一年中生息していると考えられる。
生息・生育状況	広島県ではおもに冬鳥で, 各地の二次林や農耕地で普通に見られる。県北部などの一部の地域では繁殖する個体群がみられ, 繁殖期にも観察されることがあるが生息数が少ない。県内における詳しい繁殖状況はわかっていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖するハイタカを特定し, 生息環境を保全することが重要である。しかし, 行動圏が広く, 特定の営巣地を保護することでハイタカが守れるわけではない。二次林や農耕地など, 地域の多様な里地・里山環境が維持されることが保全につながる。
特記事項	ハイタカの繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。広島県ではおもに冬鳥で, 越冬期には二次林や農耕地で普通に見られる。しかし, 対象は広島県で繁殖するハイタカで, 越冬期に飛来する冬鳥のハイタカは含まれない。
産地情報	広島市 (安佐北区), 庄原市, 神石高原町

(井原 庸)

ノスリ 地域個体群(LP) LP-①

Buteo buteo japonicus Temminck & Schlegel, 1844

タカ目 タカ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	雌の全長は約 56 cm, 雄は約 52 cm である。背面はやや暗褐色, 下面は淡褐色で脇から下腹に褐色斑がある。本州ではおもに近畿以東の山林で繁殖し, 秋から冬には全国の平野部に出現する。中国地方では繁殖が確認された事例は少ない。餌はおもにネズミ類であり, 小型の鳥類や爬虫類・両生類なども捕獲する。
生息・生育状況	県内ではおもに冬鳥で, 山間部から島嶼部の二次林や農耕地で見られる。また, 春と秋の渡りの時期にも確認される。しかし, 繁殖期にはきわめてまれである。前回の RDB 改訂のための調査で, 庄原市において繁殖を確認した。また, その後の継続調査でも庄原市や北広島町で繁殖を確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採などによる営巣林の消失や縮小だけでなく, 餌場となるの草地や農耕地の環境の変化が生息への脅威になる。生息地が限られているため, 確認された生息地では営巣林や周辺の環境が維持されることが望まれる。営巣林となる針葉樹林の維持と, ある程度まとまった面積のある草地・農耕地・伐採地などの狩り場が維持されるための管理が必要である。
特記事項	県内および西日本におけるノスリの繁殖が稀少であるため, 繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。対象は広島県で繁殖するノスリで, 越冬期に飛来するものや渡りの個体は含まない。
産地情報	庄原市 (西城), 北広島町 (芸北)

石井秀雄 2012. ノスリ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 80. 広島県.

上野吉雄・石井秀雄・加藤淳司 2015. 広島県東部におけるノスリ *Buteo buteo* の繁殖確認. 高原の自然史, 16: 85-88.

(石井秀雄)

シロハラ 地域個体群(LP) LP-①

Turdus pallidus Gmelin, 1789

スズメ目 ヒタキ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長は 24 cm, 翼長は 12~13 cm, 体重は 66~80 g である。上面は茶褐色で下面は淡く、腹部は白い。尾羽の外側の先に白斑があり、飛行時に目立つ。森林に生息し地上をはねながら、落ち葉をめくってミミズ類や昆虫類などを探して餌とする。木の実なども食べることがある。冬鳥として西日本や南西諸島の山林に多く渡来する。ウスリー・アムール・中国東北部・朝鮮半島および国内では長崎県対馬市で繁殖するが、朝鮮半島に近い中国地方西部の繁殖個体群は貴重である。
生息・生育状況	県内には冬鳥として多く渡来するが、一部の地域で少数が繁殖する。臥龍山や比婆山のブナ林で繁殖記録があるが、臥龍山では近年は繁殖が確認されていない。ブナ林の高木の枝先や低木の股に、草の茎や小枝を用いて椀型の巣を造り繁殖する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	繁殖地が限られているため、生息地であるまとまった面積の広葉樹林の保全が重要である。最近、大型台風によって、生息地である臥龍山では広葉樹林の環境が攪乱されている。また、カケスによる巣内ビナの捕食の影響が確認されている。
特記事項	国内では対馬以外の繁殖地は広島県のみであることから、繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。冬鳥として普通に見られるが、選定の対象は広島県で繁殖するシロハラだけである。
産地情報	庄原市(西城), 廿日市市(吉和), 北広島町(芸北)

上野吉雄・東常哲也・山本 裕・日比野政彦・飯田智彦 1993. 西中国山地におけるシロハラ *Turdus pallidus* の繁殖. 日本鳥学会誌, 41: 17-19.

上野吉雄 2012. シロハラ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 83. 広島県, (上野吉雄)

ジョウビタキ 地域個体群(LP) LP-①

Phoenicurus aureus aureus (Pallas, 1766)

スズメ目 ヒタキ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	全長は 14 cm, 翼長は 6~7 cm, 体重は 7~9 g である。雄は背面が黒く、翼に大きい白斑がある。のどは黒く、上胸部は赤褐色である。雌は灰褐色で、脇はオレンジ色、翼に白斑がある。日本では冬鳥として全国に渡来し、各地でまれに繁殖が確認されていた。最近では、本州西部で繁殖記録が増えている。
生息・生育状況	県内では冬鳥として普通に見られるが、一部の地域で繁殖している。北広島町芸北地域、安芸太田町戸河内地域、神石高原町豊松の宿泊施設や民家などで繁殖が確認されている。民家の軒下やスズメバチの古巣などに、草を用いて皿型の巣を造る。農耕地や草地、民家の庭で昆虫類やクモ類、木の実などを探して餌とする。
存在を脅かす要因・保全の留意点	民家や宿泊施設などの人為的な環境を利用して繁殖するので、カラス類による巣立ちビナの捕食が多く見られる。
特記事項	冬鳥として普通に見られるが、繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。選定の対象は広島県で繁殖するジョウビタキであり、越冬期や渡りの個体は対象外である。
産地情報	安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北), 神石高原町(豊松)

上野吉雄・大西順子・石井秀雄 2017. 広島県におけるジョウビタキの繁殖初確認. 高原の自然史, 17: 35-37.

上野吉雄・麻生貞之 2018. 広島県深入山山麓におけるジョウビタキの繁殖. 高原の自然史, 18: 39-41.

(上野吉雄)

ホオアカ 地域個体群(LP) LP-①

Emberiza fucata fucata Pallas, 1776

スズメ目 ホオジロ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	全長は 16 cm。頭部は灰色で黒い縦斑があり、頬は赤褐色である。背面は褐色で、腹面は白色を帯びる。北海道・本州北部・本州中部以南の高地で繁殖するとされていたが、近年は本州西部の海岸近くの低地で繁殖が確認されている。本州西部の沿岸部では、耕作放棄地や造成地の比較的乾燥した草地で繁殖が確認されており、山口県から広島県西部に分布域が拡大しているようである。また、越冬期は本州西部・四国・九州で見られる。
生息・生育状況	秋から冬にかけて越冬個体は県内各地で見られるが、繁殖期の記録は少ない。かつては県北部の牧場などで繁殖が確認されていたが、近年は見られなくなった。前回の RDB 改訂のための調査では安芸高田市の河川敷で繁殖を確認し、現在も継続して繁殖している。最近では、県南西部の造成地の草地や太田川の河川敷などでも繁殖期に観察されるようになった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	県北部では繁殖個体群が衰退したが、その要因は不明である。沿岸部の繁殖個体群は、造成地などの比較的乾燥した人為的な環境で繁殖している。増加傾向にあると考えられるため、今後の動向に注意する必要がある。
特記事項	県内の繁殖地が限られているため、繁殖個体群について絶滅のおそれのある地域個体群に選定した。越冬期に飛来する個体や渡りの個体は含まない。
産地情報	広島市 (西区, 安佐南区, 安佐北区, 佐伯区), 安芸高田市 (吉田, 高宮), 北広島町 (芸北)

石井秀雄 2012. ホオアカ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 84. 広島県.

上野吉雄・石井秀雄・大竹邦暁 2015. 広島県内陸部の河川敷におけるホオアカ *Emberiza fucata* の生息環境. 高原の自然史, 16: 63-69. (石井秀雄)

ミヤマホオジロ 地域個体群(LP) LP-①

Emberiza elegans elegans Temminck, 1836

スズメ目 ホオジロ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長は 15~17 cm, 翼長は 7~8 cm, 体重は 15~24 g である。雄は背面が褐色おび, 下面は白色で、腰は灰白色。後頭とのは黄色で、目の周囲と胸が黒い。雌は雄より地味で、雌雄とも冠羽がある。ウスリー・アムール・中国東北部・朝鮮半島で繁殖し、冬鳥として西日本に多く渡来する。国内の繁殖地は、長崎県対馬・島根県隠岐の島・広島県北広島町のみで、中国地方西部の繁殖個体群は貴重である。地上で雑草の種子や昆虫類などを探して餌とする。ヒナは昆虫で育てる。巣は地上の窪みに置き、スゲやササを主材として用いて椀型に造る。
生息・生育状況	県内ではおもに冬鳥として農耕地や山林で越冬するが、北広島町八幡高原のハンノキ林周辺や林縁部では少数の繁殖個体が見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	北広島町八幡高原の繁殖地では、営巣場所の環境が悪化している。ハンノキ林が乾燥化によってカラコギカエデに遷移している。
特記事項	国内では対馬と隠岐の島以外の繁殖地は西中国山地のみであることから、繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。冬鳥として普通に見られるが、選定の対象は広島県で繁殖するミヤマホオジロである。
産地情報	北広島町 (芸北)

上野吉雄 2012. ミヤマホオジロ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) — レッドデータブックひろしま 2011 —, p. 84. 広島県.

上野吉雄・伊東進也 2020. 広島県臥竜山麓におけるミヤマホオジロの生息記録. 高原の自然史, 20: 27-29.

(上野吉雄)

クロジ 地域個体群(LP) LP-①

Emberiza variabilis Temminck, 1836

スズメ目 ホオジロ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	全長は 17 cm, 翼長は 6~7 cm, 体重は 7~9 g のやや大型のホオジロ類である。雄成鳥の夏羽は全体が灰黒色, 雌は全体がバフ色を帯びた褐色である。かつては本州中部以北で繁殖し, それ以南の地域は冬鳥として渡来していた。近年は, 西日本でも繁殖個体群が見られるようになった。地上で種子を採餌するが, 育雛には鱗翅類の幼虫などを与える。巣は灌木の低い場所にあり, 草を用いて皿型に造る。
生息・生育状況	おもに本州中部以北で繁殖するといわれていたが, 近年は, 県内でも西中国山地や比婆山などのブナ帯で夏季に少数のものが見られるようになった。比婆山と臥龍山では繁殖が確認されている。西中国山地の個体群は個体数が少なく孤立しており, 本種の繁殖地の西限と考えられる。また, 冬季は県下一円の低山帯の暗い林や林縁に渡来するが, 個体数は多くない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生息地であるまとまった面積の広葉樹林はもともと少ないため, 繁殖適地が限られており, ブナ帯の広葉樹林の保全が重要である。
特記事項	冬鳥として県内各地で見られるが, 繁殖個体群を絶滅のおそれのある地域個体群として選定した。選定の対象は広島県で繁殖するクロジである。
産地情報	庄原市 (西城, 高野, 比和), 廿日市市 (吉和), 北広島町 (芸北)

渡辺健三・渡辺貴美恵 1992. 広島県「県民の森」でクロジ *Emberiza variabilis* の繁殖を確認. 比婆科学, 198: 1-3.

伊東信也 2018. 広島県におけるクロジの営巣初確認. 高原の自然史, 18: 75-77.

(上野吉雄)